

風に吹かれて

◇61◇

今年のノーベル平和賞は歴代最年少のマララ・ユスフザイさん(17)が受賞した。

「世界の子供たち全てが教育を受けられるように」と訴え、感動を呼んでいる。世界中で教育を受けることができない子供が多いことを知った日本の子供たちはどう感じたのだろうか？

平和賞の女性第1号の受賞者は、オーストリア出身のベルタ・フオン・ズットナーだっ

た。彼女はノーベルの秘書をしていた時期があつて、ノーベルに平和賞の提言をしたのも彼女だったと言われている。ベルタは後に作家として著した「武器を捨てよ！」がベストセラーになり、反戦運動家としても知られた。

11月下旬、松江市のくにびきメッセ国際会議場にベルタ像が運び込まれ、写真、その像の作者でオランダの女性彫刻家、ロレマさんを招き、平和を願う会

が開催された。ベルタの故郷、オーストリアからはイツプ・常子さんが来日した。

考えよう家族の絆

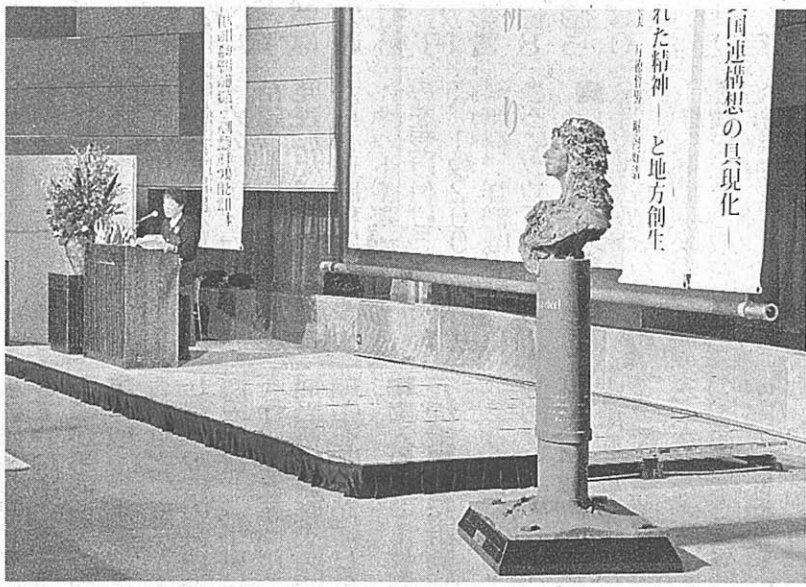
彼女が日本の大学を卒業後、オーストリアへ留学。現地の学者と結婚し、男女2人の子に恵まれ、子供たちが独立して後にガイド学校に2年通い、オーストリア政府公認のガイドとして活躍している。今回の来日は大使館主催のベルタの演劇を紹介するため日本を回った。

「日本はとても便利な国になり、特にシャワートイレの普及は世界で唯一と思えた」と常子さんは語った。一方で

も、日本では家族がうまくいってない……という話も多く聞きました。常子さんは心

痛む話と受け止めたらしい。「何事も基本は家族からです」。彼女は力を込めて言った。

そう言えば、あの有名なミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」は、ナチのドイツ占領下のオーストリアを描いたものだった。オーストリア海軍将校のトラップファミリーを救ったのは、修道女見習いのマリアの知恵と勇気と家族の絆だった。ベルタも夫の愛に支えられ、マララさんも父母の愛に支えられて偉業を成した。



「まず家族から始めましょう」。常子さんの言葉が響いた。クリスマス、お正月、家族の絆を考えてみませんか。

【作家、村尾靖子】